

鉾山町の自然を満喫

～三市スポーツ交流大会『第1回歩くスキー体験』～

2月22日(日)、第24回登別・室蘭・伊達三市スポーツ交流大会『第1回歩くスキー体験』が、ふおれすと鉾山とその周辺で開かれ、三市の小学生40人が歩くスキーに挑戦し、さわやかな汗を流しました。

この事業は、家にこもりがちな冬の楽しみ方を子どもたちに体験してもらおうと、昨年までのドッジボールに替えて、今年度から歩くスキーを実施したものです。

午前9時半に会場に集まった子どもたちは、『積極的に体を動かしたい往復4.4*コース組』と『ゆっくりと自然観察を行いたい往復3.6*コース組』に分かれ、準備運動を行った後、スキーを装着。

雪の降りしきる中、登別スキー連盟、室蘭・伊達歩くスキー協会の指導員の後について、おぼつかない足どりながらも元気にすべり始めた子どもたちは、白い息を吐きながら冬の大自然を満喫していました。

正午ごろに出発地のふおれすと鉾山に戻り、昼食の豚汁とおにぎりを口いっぱいほほう張りながら、「思ったより楽しかった」、「転ぶと立ち上がるのがたいへん」などと感想を話し合っていました。



準備できたよ



行ってきま～す

春の港、エビかご漁で活気！

～エビかご漁解禁～

3月1日(月)、春の到来を告げるエビかご漁が解禁されました。

解禁初日から悪天候が続き、3月3日(水)ようやく網が入られ、登別漁港の初水揚げは3月4日(木)となりました。

登別漁港では、主力のホッキ漁とも重なり、連日、朝9時ごろを過ぎると漁船が次々に入港。港は水揚げ作業や競りなどに追われる漁業・卸売関係者で活気にあふれています。

3月中旬までの水揚げは、しけ続きで出漁できない日が多く例年に比べて少なめですが、これからに期待がかかります。

このエビかご漁は、夏の毛ガニ漁の時期をはさんで、11月初旬まで行われ、収穫されたボタンエビとナンバンエビは道内で売られるほか、首都圏にも出荷されます。



水揚げされたエビ

カブトガニにさわったよ

～公民館講座『さかな博士教室』～



タッチプールで



ヒトデの実験

3月6日(土)、公民館講座『さかな博士教室』が登別マリパークニクスで開かれ、小学校3・4年生18人が魚の生態などを学びました。

この日は同水族館の吉中敦史学芸員よしかあつしが講師を務め、「世界中には何種類の魚がいると思いますか」とまず質問。

思い思いの答えが出そろったところで「実は2万種類の魚がいます。このうち日本には約3千種類の魚がいます」との回答に歓声がわきました。

また、「サメには硬い骨がなく軟骨なので、陸に上げると内臓がつぶれてしまう。軟骨とはみんなの鼻の骨と同じものです」との説明に、子どもたちは「へー」と驚いた様子で、思わず鼻に手が伸びる子も。

このあと、ヒトデを使った実験やタッチプールでサメやエイ、カブトガニなどに触れ、子どもたちは一層興味がわいた様子でした。